

1. 実況上の着目点

① 華中～西・東日本日本海側～日本の東に前線がのびている。500hPa 5820m付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフの接近に伴い東シナ海～九州付近で対流雲が発達、雷を多数検知、猛烈な雨を解析、メソサイクロンを検出。

② 500hPa 5640m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフに対応する気圧の谷の影響で、北海道地方ではやや強い雨を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、10日夜には北日本付近に進み、11日は日本のはるか東に進む。また、500hPa 5880m付近で-6℃以下の寒気を伴うトラフが、11日は西日本に進み、12日は日本の東に進む。前線は、10日はほとんど停滞し、11日は西～東日本の太平洋側に南下、12日は西日本では不明瞭になり伊豆諸島付近～日本の東にのびる。また、12日は別の前線が黄海付近にのびる。前線に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。北日本では10日は、西～東日本では12日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。特に、中国地方では10日昼前～夕方は線状降水帯が発生して、大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に厳重に警戒。また、南下する前線の北側では気圧の傾きが大きくなり、東よりのやや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。西～北日本では11日にかけて、強風や高波に注意。
- ② 1項②のトラフに対応する気圧の谷は、10日朝にはオホーツク海に進む。また、11日は、500hPa 5700m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧が、日本海からオホーツク海に進む。低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、北海道地方では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降って大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 10日は、500hPa 5940m付近の上空の高気圧が、本州の南岸に張り出す。東～西日本の太平洋側では晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ④ 12日にかけて、東シナ海は気圧の谷となる。気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：九州北部180、中国150、九州南部120、関東甲信・北陸・奄美100mm。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。全国的に注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨と雷及び突風に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図